

| 会 議 録                          |                |   |        |                            |
|--------------------------------|----------------|---|--------|----------------------------|
| 平成27年度第2回<br>在宅医療・介護連携推進<br>会議 | 日<br>時         | 平成27年9月10日(木)<br>午後7時00分～9時00分  | 場<br>所 | 小金井市役所<br>第2庁舎<br>8階801会議室 |
| 事務局                            | 小金井市福祉保健部介護福祉課 |   |        |                            |
| 出<br>席<br>者                    | 委 員            | 齋藤寛和委員長(小金井市医師会会長)<br>新田委員(小金井市歯科医師会)<br>森田委員(小金井市薬剤師会)<br>岩井委員(のがわ訪問看護ステーション)<br>川崎委員(陽なた居宅介護支援事業所)<br>武市委員(介護老人保健施設 小金井あんず苑)<br>山口委員(東京都多摩府中保健所 地域保健推進担当課長) |        |                            |
|                                | 事務局            | 増田(小金井きた地域包括支援センター)<br>山岸(小金井ひがし地域包括支援センター)<br>黒木(小金井みなみ地域包括支援センター)<br>久野(小金井にし地域包括支援センター)<br>鈴木(介護福祉課 高齢福祉担当課長)<br>本木、黒川(介護福祉課 包括支援係)                        |        |                            |
| 傍聴の可否                          | ◎可・一部不可・不可     |   | 傍聴者数   | 1人                         |
| 傍聴不可・一部不可の場合の理由                |                |   |        |                            |
| 次 第                            |                |   |        |                            |
| 1 高齢福祉担当課長 挨拶                  |                |   |        |                            |
| 2 議題                           |                |   |        |                            |
| (1) 医療と介護の連携シートについて            |                |   |        |                            |
| (2) ケアマネタイムの更新について             |                |   |        |                            |
| (3) ICTの進捗状況                   |                |   |        |                            |
| (4) 地域ケア会議について                 |                |   |        |                            |
| (5) 情報交換                       |                |   |        |                            |
| 開会                             |                |   |        |                            |
| 1 高齢福祉担当課長 挨拶                  |                |   |        |                            |
| 2 議題                           |                |   |        |                            |

## (1) 医療と介護の連携シートについて

(事務局)

委員より前回指摘のあった「スムーズな連携構築のためのツールとして市で指定された書式があればよいのでは」という意見により調べた結果、小金井市では平成16年にそのツールが作成されていたことが判明した。このツールが利用されなくなった要因の検討と、今後の利用方法について考えていく必要がある。

利用されなくなった要因について包括では、直接医師のところに出向いて相談をしている。医療連携室を経由して相談をすることも多くなってきたので連携シートを使うことがなくなった。また、書く物が多かったのが、浸透しなかった理由の一つであった。

現在のケアマネジャーの状況として、包括の方々は在宅の方からみると、医師も包括の職員だからと多分後ろ盾のようなものがあるような気がする。在宅の一ケアマネという立場では「何しにきたんだ」みたいな感じの場合もある。新人や医療面の連携が難しいケアマネジャーは医師と連携をする時に「どのようなところから入り込んでいったらいいのか」がわからない方もいるのではないかと思っている。

ケアマネと医師の温度差をどう下げていくかというところが大事だと思う。用紙を作ればオッケイではなく、浸透させていただくところが重要なのではないか。

ケアマネグループ連絡会で使うように呼びかけをして、ある一定期間置いてもう一回検証したらどうか。最初に医師に「今度、私がケアマネになりました」と挨拶しておけば何かあったときに、相談にのり易いし、それが重なれば包括と同じように気軽に医師のところへ連絡したりできるようになるかもしれない。最初慣れるまで、医師と顔がつながるまでしんどいかもかもしれないが辛抱して使うことによって、よりスムーズな連携が取れるようになるのではないかと期待する。ケアマネグループに呼びかけをして使うようにし、その後で内容の検討をすればよい。

(齋藤委員長)

ケアマネジャーがさらに医師の方に認識されるにはまだまだ時間がかかるがそれでは困る。連携シートを利用すれば、ここのこの方なんだと認識できる。ケアマネジャーの間で周知をし、周知が徹底したら、医師会でもみんなが集まった席で説明して、目的を理解するように教育する。「主治医・ケアマネ連絡票」を使ってみるということで、よろしいか。

(「はい」と声あり)

## (2) ケアマネタイムの更新について

ケアマネタイムとは、全国的に、医者とコンタクトをとるためにケアマネが、どういう時間帯に連絡をとったらいいかという情報をまとめたものがある。

(事務局・本木)

小金井医師会の協力を得て、作成された。当時、御協力いただいた先生と取り決めをした内容が4つある。

- 1 指定された連絡方法を守る。
- 2 何を相談するために、連絡をとるのかをまとめ、必ずメモの用意をする。
- 3 電話と面会は短時間で行うようにする。
- 4 相談後は、結果の報告も忘れずにする。

連携シートにしてもケアマネタイムにしても、1つの手段であって、それをどう生かすかというところは、個々の力量にかかってくると思う。ケアマネタイムは、今後、更新していただく予定である。

(齋藤委員長)

ケアマネタイムについては項目を考えて、なるべく医師会のみんなに、ケアマネとの連携をとるためのツールということを理解するような文章を付け、アンケートをとり改善していきたい。

### (3) ICTの進捗状況

(齋藤委員長)

東京都から、SNS、ソーシャルネットワークシステムを使って、在宅療養に携わる多職種が情報交換を迅速にするというシステムを医師会が中心になって、今年度中に導入しなくてはならないという縛りがあり、来年度からは使って、再来年度からは習熟するシステムをみんなで検討しようという医師会で勉強会を行っている。

医師会ではメディカルケアステーションの採用を検討し、理事会でも承認をいただいた。

なるべく多くの方に使っていただき、連携を取っていきたい。本当は顔の見える連携がいいわけだが、そこに至る1つのツールという感じでもいいと思う。最初はシステムだけ入れて、実際の連携が進まないと、絵に描いた餅だと思っていたのだが、逆にシステムを導入して、顔の見える関係が後からついてくることもあるかもしれない。特に異論がないようなら、導入して、使ってみたいと思う。

在宅療養というのは、1市だけでは完結しない。武蔵野市と同じ機種であれば、武蔵野市と市境でやる場合もある。医師会として何か取り決めはあるのか。

(齋藤委員長)

「東京都で決めて欲しい」という意見もあったがそれはできないということであった。地域包括ケアシステム自体が各自治体に任せられているので、各医師会で考えるということである。

(事務局・本木)

ICTについては、個人情報の手続の関係があるため、市役所と地域包括支援センターは、実際に参加は難しいと思っている。医療と介護の連携というところについては、非常にいいことだと思っているので、どういう形で御協力できるかは、今後、検討していきたいと思っている。

#### (4) 地域ケア会議について

事務局より地域ケア会議についての説明あり。

(事務局・本木)

昨年6月に実際の開催がスタートした。地域課題の検討を行う地域ケア会議では、地域づくりと資源開発機能を果たすことを目指している。

ひがし地域包括支援センターで実施した小地域ケア会議についての報告あり。

(事務局・本木)

バラエティーに富んだ方々が、肩書に捉われることなく、言わされていることもなく、自らがその地域のためにどうあるべきか、膝を突き合わせて意見交換ができ、いい雰囲気だと思った。

(小地域ケア会議の予定について各包括より報告)

小金井にし地域包括支援センター：10月20に日予定

小金井市みなみ地域包括支援センター：11月に予定

小金井市きた地域包括支援センター：11月19日に予定

(事務局・本木)

昨年度、6月に地域ケア会議ということで、全面改定で要綱を制定しているので、それ以降に開催された実績を参考までに報告します。26年度は、小と個別を合わせて11回、参加延べ人数524人です。

今年度からは、個別では何回、小は何回という、分けた形にしているが、一番大きな小金井市レベルでの地域ケア会議は、地域包括支援センターの運営協議会を年に2回ほど開催しており、その中で取り上げる形での置きかえも可となっている。今後、会を重ねていくにつれて、だんだん慣れていくものだということが、小地域ケア会議に参加した中で、実感としてわかってきたところもある。これも会を重ねていき、皆

さんに周知していただき、まちづくりにつなげていくという、長い道のりになっていくと思っている。

(齋藤委員長)

保険とか、互助とか、共助とか、そういったことに興味のない人たちに、何とか入ってもらいたいということがある。地域包括ケアシステムというのは、そういうものだ、理解している。そのために、こういう会議をやったということは、全市民に本当は知らせたほうがいいのではないかと思う。

(事務局・久野)

いろんな方に周知する方法というのは、今後の大きな課題だと思う。

地域ケア会議には非常に期待しているところが多い。やるときには、もうちょっとオープンにしてもらい、報告してもらおうと、喜んでみんな参加すると思う。よりいいものをつくるためには、周知の方法も御検討いただければと思う。

小金井市の会議体がどうなっているかということが見えると、包括も個別ケアを中心になってやる。小地域というところもやるという形になっていて、全国レベルの紋切型の絵柄ではなくて、小金井バージョンみたいなものがあると、すごくわかりやすいと思った。

(事務局・本木)

まだ駆け出しということもあり、委員の御意見を念頭に置きながら、実際にまたやっていく中で、小金井らしさが出るような、地域ケア会議に取り組んでいきたいと思っている。引き続き御助言をお願いします。

## (5) 情報交換

- 1 介護の日の催しについて
- 2 医療構想について
- 3 地域包括ケア講演会について
- 4 居宅グループの情報交換会について
- 5 薬剤師会の研修について
- 6 訪問看護ステーションの研修について
- 7 認知症サポート医研修について
- 8 歯科医師会の在宅診療について
- 9 地域ケア研修会について
- 10 医師会での多職種研修会について

上記の報告があった。

事務局から、次回の会議は2月を予定していることが確認された。

閉会